



平成25年〇月〇〇日

周南市長 木村 健一郎 様

鹿野地区地域審議会

会長 安 永 守 印

新市建設計画の進捗状況について（答申）

平成23年10月20日付け周企第258号で諮問のあった「新市建設計画の進捗状況」について、別紙のとおり答申します。

案

答申

1. 新市建設計画の進捗状況

リーディングプロジェクト事業のうち、「豊かさ」という視点から、安全で快適な暮らしを実現するための事業として、CATVサービスの開始、一般廃棄物最終処分場の整備、子育て支援センターの確保などは実施済みで、ライフラインの整備については、老朽水道管の更新及び下水道の整備事業も計画的に整備が行われている。

次に「一体性」という視点では、それぞれの住民が一体感を共有することによりよいまちづくりの推進に向け、地域内交流・連携の促進事業及び地域の特性に応じた振興事業として、幹線道路整備については引き続き継続実施が必要であり、バス路線廃止に伴う新たな生活交通として乗合タクシーの運行、保健・福祉・医療・地域活動を促進する複合施設「コアプラザかの」は整備され、今後も利便性の良いものとなるよう検討いただきたい。

なお、合併記念公園事業については新たな整備は必要ないと考えるが、鹿野の自然環境を十分に活かして、景観のよい市民憩いの場、空間となるよう既存公園の整備を要望したい。

次に主要施策事業として、市道、林道等の改良については随時実施されており、今後も未実施分については引き続き早急な実施が必要と考える。

鹿野小・中学校兼用体育館整備は実施済みであり、鹿野地区2ヶ所（大地庵・柏屋）の市営住宅及び教職員住宅の建て替えについては、鹿野地区内の他の市営住宅の空き状況、また人口動向をみてもどちらも新たな建設は必要ないが、古い住宅も多く生活環境の改善は必要と思われる。

ストックヤード整備事業については、リサイクルプラザが完成したことによるごみ収集の変更により、天体観測施設整備事業は、計画当初の状況が変わったこともあり、新たな整備は必要ないと考える。

また、消防防災体制の充実強化施策として消防緊急通信指令システムの整備、危険ため池整備事業はいずれも実施されている。

2. 同計画期間終了後の鹿野地区のまちづくりの方向性

市民の安心安全を地域の核として、過疎化、高齢化が進む鹿野地区においては豊かな自然、とりわけ水、山、川は貴重な財産であり、自然と共生をする中でのまちづくりが大きなテーマと考える。

鹿野地域山間部の携帯電話不感地域では、災害時における通話はもちろん、災害時の情報「しゅうなんメールサービス」等も受信できない状態である。市民の安心・安全を確保する上からも、携帯電話の不感地域解消に早急に取り組んでいただきたい。

また、鹿野地区における冬季の積雪は多く、特に高齢者等は除雪に苦慮しており、交通手段が確保されないと日常生活にも支障が出るため、大変な不安を抱えることになる。今後も市民の安心を確保するためにも引き続き道路を含めた除雪対策に重点をおいた対策を要望する。

高齢者等交通弱者の交通手段として乗合タクシーはかかせないものであり、今後においても利便性の向上と存続を強く要望したい。

ファンタジアファーム整備事業については、「都市と農村の交流」を促進し、中山間地域の活性化につなげる重要な施策として、しかも想定地区が鹿野地域ということで、大いに期待していたところであるが姿がまったく見えてこない。当初の目的を達成するため既存施設の有効活用を図るということであれば、豊かな自然との連携を図り「せせらぎ・豊鹿里パーク」や「名水百選」でもある清流通りから天神山周辺、また潮音洞やしだれ桜、アサギマダラが飛来するなど、鹿野地域の山・里山・川・田畑その特色を生かし四季を通じて地地域間交流の出来る環境整備の構築を要望する。

ここにきて公共施設の再配置計画が示され、鹿野総合支所の廃止ということが鹿野地区広まり、地域振興の核として存在している総合支所がなくなることへの住民の不安は大きく存続を強く望むものである。

また、鹿野総合支所、鹿野公民館は別施設へ統合または移転となっており、現

総合支所の跡地利用やアプラザ建設時より鹿野自治会連合会及び鹿野地区地域審議会から強く要望してきた文化ホールについては、既存施設の鹿野公民館ホールを有効活用すべきとの方針を示されて以来、唯一のホールとして使用してきたところである。これらを含め施設の統合、再配置については住民意見を十分取り入れ地区住民が安心して暮らせる地域の形成を要望し、答申とする。